

令和4年度第5回二宮町施設一体型小中一貫教育校設置研究会 議事録要旨

日 時 令和5年3月3日（金）9時30分～11時30分

場 所 二宮町役場 第1会議室

出席者 ○会員

出席 12名

原会長、山内副会長、大矢会員、八幡会員、渡邊会員、遠藤会員、
中西会員、伊庭会員、野谷会員、岡野会員、藤原会員、森会員

欠席 6名

関口会員、齋藤会員、脇会員、宮戸会員、石井会員、小林会員、杉本会員

○オブザーバー 3名（北川校長、藤田校長、和田校長）

○事務局 教育部長、教育委員会教育部教育総務課4名

傍聴者 1名

配布資料

- ・次第
- ・資料1 品川学園施設結果（案）
- ・資料2-① 施設一体型小中一貫教育校の意義
- ・資料2-② 二宮町の小中一貫校の教育と目指す子ども像

1 開会

2 会長あいさつ

会 長：3月9日の品川学園の視察は、大変実りの多いものとなりました。今回は、第3回の講演会及び品川学園の視察の振り返りを踏まえ、今後の小中一貫教育をどのように作っていくのか、子どもをどう育てていくかを協議していきます。皆さんには、事前にそれぞれの意見をまとめてきていただいていますので、それをご活用いただき、グループで協議をお願いします。本日は、よろしくお願いいたします。

3 協議

- (1) 第3回講演会のふりかえり
- (2) 品川学園視察のふりかえり

会 長：第3回の講演会では、「デンマークの教育と日本の教育のこれから」及び「世界の教育事情」の2つをテーマに講師の方にお話をいただき、日本の考え方、デンマーク及び諸外国の考え方との違いを知ることができたと思います。それらを踏まえ、二宮の小中一貫教育で取り入れられること又は取り入れていきたいことを、各グループで話し合っていたきたいと思います。なお、視察については、今回は教育の中身について協議いただき、ハード面については今後協議する機会を設けることとします。

○グループワーキング

2つのテーマについてのグループワーキング結果を発表

【第3回講演会を踏まえ、二宮町にとりいれたいこと】
小中一貫の中で取り扱えるものをキーワードとして抽出

Aグループ

- ・外国語の習得
- ・ICTスキル
- ・何ためという目的（校則、試験、制服の在り方等）
- ・キャリア教育
- ・個性を大切にしている、アイデンティティ
- ・本人の考え、子ども、大人関係なく受入れ、尊重している
- ・自尊心、自立心、自己肯定感を高めるための学び
- ・学ぶ場の選択肢の多さ
- ・いつでも、どこからでも学べる
- ・幸せ第1主義

Bグループ

- ・自主性、主体性
- ・自己肯定感を高める学び
- ・互いに否定しない関係
- ・個性を大事にし伸ばす
- ・性善説が基本
- ・国、地域、保護者すべてが、子どもの自主性を尊重している
- ・将来を早めに見せる
- ・ギャップイヤーが尊重される
- ・将来を早めに見せる

Cグループ

- ・良い人生を送る大人を目指す
- ・社会に出てからの学びの場
- ・15歳は社会人の入り口
- ・子どもの共生心を養うイエナプラン
- ・自己実現
- ・多様性をどう生かすか・認め合い
- ・向上心を持ち続ける
- ・幸福度
- ・充実した社会保障

【品川学園視察を踏まえ、二宮町にとりいれたいこと】

小中一貫の中で取り扱えるものをキーワードとして抽出

Aグループ

- ・空間のゆとり
- ・5～7年生が互いに見える（見える化（教員も含む））
- ・成長に併せた区切り方（4－3－2制）
- ・9年間で育てるという意識
- ・教員全員で理解している
- ・近い将来をみられる
- ・キャリア教育、将来像を早い段階から見える

Bグループ

- ・様々な行事に様々な学年が参加している
- ・生徒がやりたいことをサポート
- ・キャリア教育
- ・4－3－2制の考え方が徹底されている
- ・教員の考え方が定着している
- ・いじめ、なかよし会議の定期的な開催
- ・5年生から定期テストを導入
- ・地域全体がコミュニティスクール、進化したコミュニティスクール

Cグループ

- ・子どもたちが自分たちで教え合う、自然にし合える
- ・9年間で育てる自觉
- ・学童も取り組む（教育課程外でも異年齢交流を通じて学べる）
- ・地域コミュニティの関わり、企業との関わり
- ・チームで教育を行う、教員にとって楽しい職場であること
- ・独自のカリキュラム

（3）二宮町の小中一貫校の教育と目指す子ども像

会長：（1）（2）の結果を踏まえ、二宮町の小中一貫の教育と目指すべき子ども像を検討していきます。協議を進める前に、施設一体型の小中一貫教育の意義を改めて確認していきます。

小中一貫教育が右肩上がりで増えている理由としては、中一ギャップの解消、学力向上、生徒指導上の問題減少、不登校児童生徒の減少、教員の過重労働の解消、教師の指導力の向上などがあります。また、導入した公立学校では高い数値で成果が認められています。

なぜそのような高い教育効果を生むのか。9年間において、学習面では、学び直しができる、学び進めができる、中一ギャップが解消されるなどの教育効果が生まれま

すが、9年間の子どもたち同士が作るコミュニティの互いを育てる力が非常に強いということが言えます。今回の資料では、それらを「9年間の連続した学び、6歳から15歳までの子どもたちで構成された環境、小中の教員が協働で進める教育活動、地域全体で子どもたちを育てる環境が子どもたちの認知能力（いわゆる学力面）、非認知能力（いわゆる心の育ち）を伸ばす」という表現でまとめてみました。

ここからは、目指す子ども像と二宮町の小中一貫教育について、皆さんに協議していただきたいと思います。第3回の講演会で北村さんからいただいたアドバイスをもとに、もう少し目的をはっきりした記載にしたほうが良いと考え、資料のように修正しました。目指す子ども像の「自分の強みを生かして心豊かに生きる子」には、皆さんから非常にたくさんいただいた「自尊感情、自己肯定感を高めたい」という願いと、学習面も含めて、自己実現がはかれるように成長してほしいという思いを入れました。また、目標実現のための4つの方向性もまとめてみました。皆さんには、今日のワーキング結果をもとに、これらの表現についてグループで協議をお願いします。

会 員：小中一貫教育推進計画に位置付けられている3つの子ども像との整理をどのように捉えれば良いでしょうか。

会 長：意味を分けるというよりは、その3つの子ども像の要素も含めて、今回の示した案について協議していただくイメージです。

○グループワーキング

Aグループ

- ・自己肯定感、自尊心がキーワード。
- ・自分の強みを生かす。集団の中で相対的に自分の強みに気づけることが大事。
- ・最終的には、仕事につなげていけることが好ましい。

Bグループ

- ・自分の良さを発揮する、伸ばすことが大事。
- ・多様なコミュニティに関わることで、自分の強みと弱みを知ることができる。
- ・それらの結果でアイデンティティや自我が芽生え、自尊心へとつながり、さらには自分の良さを発揮することになる。アイデンティティや自我を育てることも大切にしたい。
- ・他学年との関わりにおいて、必ずしも下の学年が上の学年から学ぶだけでなく、その逆もある。地域についても同様で、地域と子どもが互いに学び合うことができる。多様な関係性を作ることが大事。

Cグループ

- ・分離型には限界があるので一体型の早い実現が好ましい。
- ・世界、グローバル、幸福、相互理解という言葉ではなかなかイメージが付きづらい。具体的な言葉として、自己実現、自分にまっすぐというようなキーワードを加えたい。

会 長：今回の目指す子ども像については、施設一体型小中一貫教育にフォーカスをあてる

ことと、9年間の子どもたちのつながりの特徴を生かした教育目標として、従来のものと整理ができると思います。現在の案はそのまま生かし、その中で、施設一体型でできること、やりたいことを列記し整理したいと思いますがいかがでしょうか。

会 員：4つの方向性の語尾が「～する」となっていますが、することが目標になってしまうため、主体を「子ども」にし、行動によりできあがる姿がイメージできるような語尾にした方が良くと思います。例えば、力を持つ、身に着けるなどが考えられます。

会 員：地域性やグローバルなどの両極端な表現が混在するため、少しギャップを感じます。グローバルについては、インターネットを介しての交流など想像できますが、直接交流するとなるとハードルが高い目標なような気がします。

会 員：前回のワーキングの中で、子どもたちが大志を抱けてないという意見がありました。大きい夢をもつという意味でグローバルのキーワードが入っているという理解です。

会 長：英語教育、ICT教育などは、ただ単に技術を使えば良いのではなく、それらが持っている意味や可能性についてしっかり教えることが重要だと思います。また、地球規模で考えなければならない課題がある時代なので、二宮町だけの閉ざされた中だけではなく、世界に向けた目を育てていかななくてはならないと思います。

会 員：リテラシーという言葉が様々な場面で聞かれます。様々なチャンスがあっても、臆してあきらめてしまうことが問題で、大変もったいないと思います。臆せずに様々な世界に向き合えることができる、そのために色々なリテラシーを高め、自分のやりたいことを実行実現していけることが大事です。ICT教育や言語活動は、すべてそれらにつながっているのだと思います。

(4) その他

事務局より

- ・会議の開催時期、開催方法については、多くの方に参加していただけるように改善していきます。
- ・各団体等において、協議した内容をぜひ周知していただきたいと思います。
- ・研究会の会員の任期2年となっています。年度切り替えにより充て職の方が変更になる可能性があると思いますが、後任の方に、これまでの活動をしっかりと引き継いでいただくようお願いします。

会長より

- ・各団体等で説明できる資料をまとめます。学校経由で提供しますのでご活用ください。

4 閉会